

## (幕別町) 町民と考えるオリンピックの町ワークショップ (第4回) 議事メモ

コーディネーター	伊藤 伸
説明担当者 (自治体)	石野郁也、甲谷英司
日時	2019年4月23日 (月) 18時30分から21時05分まで
場所	幕別町札内コミュニティプラザ (幕別町札内青葉町311-11)
その他	参加者数 (町民) 3名、(短大) 2名、(オブザーバー) 5名 欠席者数 (町民) 8名、(短大) 0名 傍聴者数 (町民) 7名、(町外) 4名、(報道) 2名

### 趣旨・概要

第4回目は、第3回目の町出身のオリンピックである桑井亜乃さんとの議論やこれまでの議論を踏まえて、「オリンピックの町」としての目指すべき方向性を具体的に議論し、各参加者から改善提案シートの記入を行った。

### 第3回の振り返りと今日の進め方

#### コーディネーター

今日は、今まで皆さんから書いていただいた改善提案シートを踏まえて、これから幕別町のオリンピックのまちづくりとして打ち出していくために、このようなことに気を付けていけばいい、このようなことをやってみてはどうかというような意見をまとめていき、議論をすすめていきたい。

1回目は全体の課題把握、2回目は子どもに焦点を当てて、スポーツの関わりを議論し、3回目は桑井亜乃さんが来られて、オリンピックをどのように応援していくか、その雰囲気継続していくかという視点で議論を行った。

あと、生涯スポーツの観点から、単に競技スポーツだけではなく、大人になってからも体を動かす環境を作るのもオリンピックの町としてまちづくりにつながるのではないかと1回目の会議で意見があったので、もう少しこの点を掘り下げていきたい。

前回の議論をおさらいすると、桑井亜乃さんから現役5人のオリンピック選手がいることについての意見を聞いたところ、キーワードとして取り上げていたのは「食と健康」であった。幕別町は農業が盛んであり、おいしい食べ物とアスリートがつながっているのではないかと。5人が同じ店で食べていたものやメニューをクローズアップすると面白いのではないかと話されていた。運動と食が深い因果関係があるのではないかと話されていた。そのなかで、具体的にオリンピック5人を輩出している要因分析をしているわけではないので、幕別町の風土、環境などを大学などに研究したら大きな特徴が出てくるのではないかという意見が出ていた。

オリンピック選手が1人や2人ではなく、5人全員が揃うことのインパクトが非常に大きいのではないかという意見もあった。ただし、5人全員揃うのも時間的な制約で厳しい

状況であり、難しい。でも、それを何とか実現できたらいい。例えば、産業まつりに5人揃ったら大きなイベントになるし、もしそれが実現できなかつたとしても、毎年必ずオリンピック1人は参加してくれるようなことをすることで、オリンピックという意識を高めることができるのではないかと意見があった。

あとは、幕別町だけでオリンピック選手を呼ぶだけではなく、他の自治体や北海道と連携しながら進めていくのも必要ではないかという意見もあった。

改善提案シートは、「アスリートと食」以降が前回の会議で主に追記された部分になる。

その改善提案シートをもとにして、どのような提案に仕上げていくかというのを「オリンピックの町づくりのために目指すべき方向と課題」となっている。

次回が最終とりまとめとなるので、今回は、4つの提案項目に対して、意見を書きいただき、意見提出シートを作成していただきたい。

## ワークショップ（協議）

コ) まず、今までの議論や提案について、事務局の感想や意見をいただきたい。

事) 議論の感想として、オリンピックの町をつかっていくうえでの課題を行政も洗い出しをしていたところであるが、今までの議論と一致する部分が多いと感じたところである。その中で、課題を解決していくうえで悩んでいる部分は、個人や地域の取り組みがなければ、いくら行政だけで取り組んでいては、地域と行政との意識の温度差が出てくるのではないかと思う。そのため、個人や地域の取り組みを考えていただき、それをみんなで実行していくことがこれからのオリンピックの町として向かっていくことになるのかなと考えている。個別の議論としては、なぜ5人のオリンピックが輩出されたのかという要因について、報道などに聞かれる場面はあるが、あくまでも憶測な回答にしかならず、何か研究結果などの根拠が必要なのかなと思う。そのほかに5人のオリンピックを集めてはどうかという意見もあったが、当町出身の選手が来年の東京オリンピックに出場する可能性があり、ましてや自国の開催でもあるので、オリンピックの機運を高める・盛り上げていくためにも5人のオリンピックを集めてイベントをすることは非常に大事であると考えている。皆さんの意見は施策に反映できるように進めているが、行政だけではなく、個人や地域も協力し合わなければ、今後継続していかないと思う。

話は変わるが、チャレンジデーの宣伝をさせていただきたい。チャレンジデーは、今年で6回目の参加である。いつもは1対1の対戦であるが、今回は秋田県にかほ市と広島県北広島町との三つ巴の対戦となり、一番参加率の高い自治体が勝利となる。15分以上体を動かして、継続しての運動のきっかけにつながっていければと考えている。チャレンジデーの当日イベントは現在調整中であるが、いろんなイベントを考えている。決まったら、追って広報やホームページ、新聞折込チラシなどで周知する。

- コ) オリンピアンを町を進めていくうえで、今後もオリンピックを生み出すためのまちづくりなのか、またはオリンピックを通じて、スポーツや運動に親しむまちづくりなのかという議論が以前にもあったが。
- オ①) 私の立場として、オリンピックを生み出すものではなく、町民がいかに健康で運動に親しめることを目的に活動している。その中で、5人のオリンピックの特殊性を考え直してみるべきである。オリンピックのまちづくりと健康増進とは目的が違うけど、直接的な関わりや専門的な知識などの具体的な部分に細かな違いはあっても、共通点があると思う。
- コ) 前回の桑井さんの話から感じたことはないか。
- オ②) オリンピアンを輩出する要因について、食の話や応援する環境の話や桑井さんから聞いて、非常に説得力があった。オリンピックの話や聞くことが身内意識や親近感を持つことができるので、そのような雰囲気や醸成することが必要ではないか。たとえ本人に会えなくても、ビデオメッセージの方法もある。自分の仕事上として、SNSの発信や十勝出身のオリンピックの特集の中で、活躍している姿を皆さんに情報として届けていきたいと考える。
- メ①) 私の息子は桑井さんの学校訪問でお会いしたが、それまで女子ラグビーや桑井さんに関しての興味はなかったが、本人に会って親近感が持てたと述べていた。スポーツをすることの影響を考えたときに、5人のオリンピック全員に会えるとなると非常に面白いものになる。
- オ③) 今年4月から幕別町農業者トレーニングセンターと札幌スポーツセンターで指定管理に移行となり、その指定管理業者が札幌スポーツセンターでスポーツ観戦ができるように大型テレビを設置し、先日、当クラブの選手の試合のパブリックビューイングを行った。スポーツやオリンピックの興味の動機付けとして、コミセンや役場でもスポーツ観戦ができる環境、ネットでいつでも見えるようにすることが必要であり、観戦していく中で選手のあこがれが芽生え、そして実際にその選手に直接目の前に会うともっと興味や関心が深まると思う。
- オ④) 大型テレビを設置して、他種目のスポーツ愛好家がスポーツ観戦を通じて、コミュニケーションが生まれている様子が見られる。このように札幌スポーツセンターがスポーツをするだけではなく、気軽にスポーツを「見る」、「応援する」ことができる施設になっていけばいいなと考えている。
- 短①) スポーツを始める人は、まずは見てそのスポーツに興味を湧いてきて、そして実際にやってみるということにつながるものだと思う。
- 短②) 先ほどチャレンジデーの話があったが、チャレンジデー当日にオリンピックと一緒に運動してみるのも面白いと思う。
- メ②) 私はほぼ毎日、スポーツ意識を高めるために、スポーツ番組を見ている。しかし、子どもや孫はスポーツ番組を見ないので、あまり5人のオリンピックを知らない

思う。

コ) 子どもがスポーツに興味を持たない理由は何だろうか。

メ①) 私が幼少期の頃は、スポーツをやっている人が多く、運動部に所属している人も多かった。しかし、最近は、ゲームをしている子どもや運動・スポーツ以外に興味を持つ子どもなど多様化しており、その周りの環境でスポーツに興味を持たない子どもが増えてきているような気がする。

オ⑤) 先ほどの意見を補足すると、当時は小学生低学年の時に、親や地域、学校の休み時間を使って、体を動かす環境を作りあげてきた結果だと思う。昔は竹馬や一輪車などの遊びの中から、基礎体力を養われて、スポーツにつながってきたものだと思う。

オ④) スポーツに興味を持たないのは、保護者の都合ということもある。子どもにスポーツをできるきっかけが作れないのは、金銭負担もその要因の一つにある。例えば、スポーツをするうえでの道具を揃えるのに、スケートでは靴やスーツなどで20万円、サッカーでも1～2万円かかる。道具を購入する補助制度があれば、スポーツをするきっかけが少しでも増えると思う。また、送迎の問題もあるが、当クラブでは送迎バスで対応しているので、その点の保護者負担は軽減していると思う。

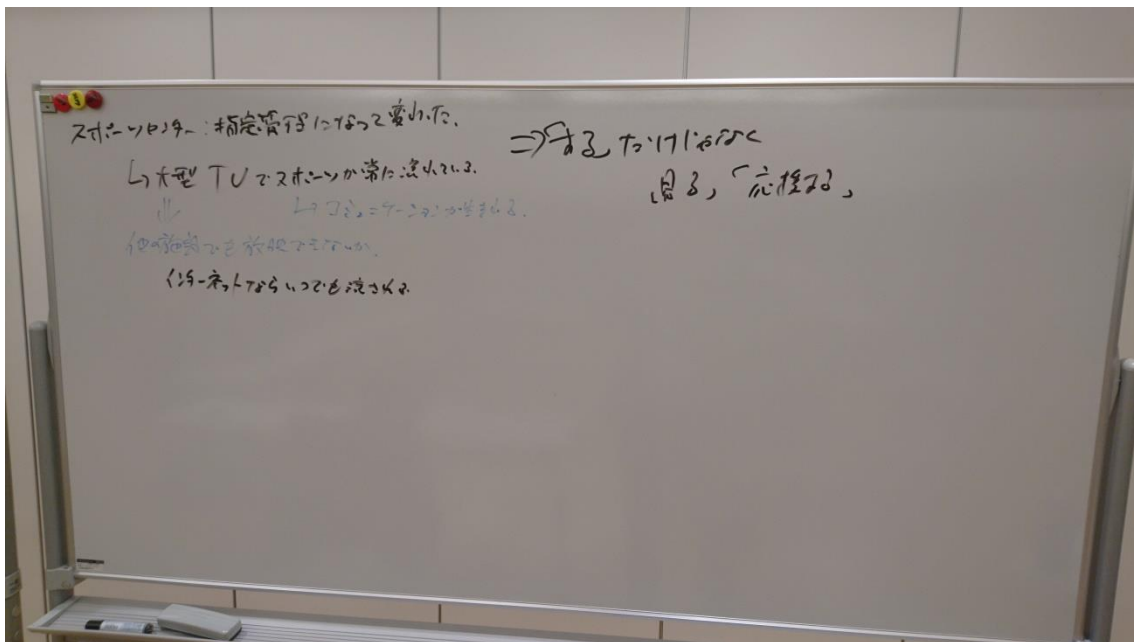
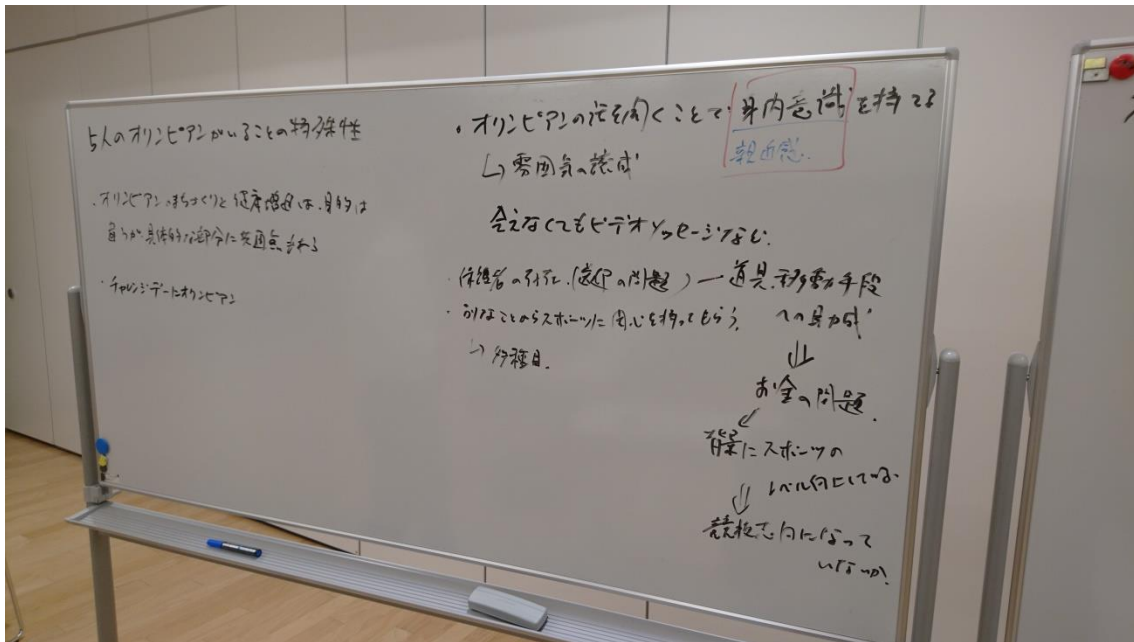
オ①) 指導者のレベルが上がれば、選手個々のレベルが上がり、周辺のチームの対戦だけでは物足りず、レベルの高いチームの対戦をするために遠征をする。その遠征の送迎だけでも保護者は相当の負担がかかっていると思う。

オ④) 練習を重ねるうちにやはり勝利、結果を求めるようになってきていることはある。競技志向になっているのもなかなかスポーツに取り組めない原因かもしれない。

メ③) 競技レベルが上がるのは、やはり指導者の力が大きい。一方で、スポーツに親しむきっかけづくりも必要であり、指導者によって枝分かれする必要があるかもしれない。

短②) 先ほど道具の意見があったが、例えば、使わなくなった道具のおさがり制度を作れば、保護者の金銭負担はいくらか軽減できると思う。

前半～ホワイトボードの写真



- コ) 生涯スポーツの観点について議論する前に、前回、事務局が示した資料を今一度説明してください。
- 事) まず、トレーニング室と健康講座について説明する。農業者トレーニングセンターと札幌スポーツセンターは今年4月から指定管理に移行した。資料は指定管理以前

の情報となっているので、ご理解ください。トレーニング室は、農業者トレーニングセンターと札幌スポーツセンターにあり、現在、トレーニング機器の使い方を指導する職員は、年末年始の閉館日を除いて、午前9時から午後9時までの間は常駐している。トレーニング機器は、今までどおりの機器を設置している。健康講座は、指定管理者で企画しているが、今まで行っていたヨガを廃止し、ストレッチポールを使った運動など新たなメニューを追加している。次に農業者トレーニングセンターと札幌スポーツセンターの団体利用、そして幕別市街・札幌市街にある小中学校の学校開放の予定表である。農業者トレーニングセンターや札幌スポーツセンターの団体利用は、13時～17時の時間帯の利用が少なく、17時以降の時間帯はほぼ満杯である。学校開放は、平日しか行っていないが、ほぼ満杯である。

- コ) この説明を受けて、生涯スポーツの観点について、議論を進めたい。
- メ③) 両施設は、町民無料となっているが、帯広市の体育館は、市民であっても有料であり、冬期間であれば暖房代も徴収される。しかし、帯広市の体育館でもびっしり団体利用が詰まっており、一般で利用できる時間帯は多少ある程度である。サークルが多いことが要因にあるようである。
- メ①) 団体利用を決めるときに、もめ事が起きないだろうか。
- 事) 以前は、団体利用の代表者を集めて、会議の中で決めた経緯はあるが、ここ数年は昨年利用している団体を優先に団体利用を認めている状況である。そのため、新たに団体利用を申し込むことが難しい状況である。
- メ③) 帯広市では、コミセンの団体利用も含めて、抽選で決めていると聞いている。
- オ①) 町内のコミセンは、ミニバレーの利用が多い。
- オ②) 帯広の体育館の場合、確か金曜の19時からの30分間は、バスケの一般開放となっている。バスケの利用が多く、練習をするためにいつも場所探しで苦労している。
- オ⑤) パークゴルフも団体利用で一杯になることがある。
- コ) 以前、農業者トレーニングセンターの利用人数が約3万人、札幌スポーツセンターの利用人数が約10万人であり、幕別の人口規模から考えると相当利用されていると思うが、実際にスポーツをやっている人はそれほど多いわけではないという数値も出ている。その点については、どう考えられるか。
- オ④) 確かに同じ人の利用、いわゆるリピーターが多い。利用者の中に、競技志向が高い利用者もいるので、オリンピックが生まれる要因がそこにあるかもしれない。
- コ) 町内の体育施設は、町民利用は無料であると以前事務局から説明があったが、おそらく無料で利用できる自治体は、全国的に見ても少ないと思う。
- 事) 近隣市町村である帯広、音更、芽室、池田は、町民であっても、入場料としてお金をとっている。十勝管内でも無料としている市町村は少ないと思う。
- メ③) 町民が無料で体育施設を利用できることはありがたいが、かえって一般の方が利用

しにくい状況を生みだしているのではないか。

- 短②) 私の地元では、体育館半面を自由に使えるように一般開放している。そのため、中学校の部活動の活動場所にもなっている。その結果、運動部の加入率が高かったような気がする。
- メ①) 無料だから利用が集中するのでは。やはり一般開放の枠を設けたほうが良いが、何か方法はないだろうか。
- メ②) 以前、パークゴルフの有料化という話はあるが、お金を徴収するために管理人を常駐する必要があり、そのための人件費などが新たに発生するため、果たして有料化にするメリットは少ないような気がする。
- オ①) 話を聞いていると、体育施設の利用者の中で、「生涯スポーツのため」と「競技スポーツのため」の2つの目的に分かれていると思う。スポーツを始めるときは楽しくて爽快な気分で行っているが、段々スポーツをしていくたびにうまくなりたい、練習して上達したいという気持ちで競技志向になっていくものだと思う。スポーツを盛んにするためには、スポーツに触れる機会を増やすことが必要ではないか。
- オ③) 幕別は、町外の利用者が多く、また上手な人が集まることが多い。上手な人のプレーを見ていると、スポーツの意識が高まるのでは。
- オ②) 例えばスポーツジムをオリンピックがプロデュースするのも、スポーツの意識を高めるきっかけになると思う。お金を払ってでも利用する人がいると思う。
- メ①) 新得町は、チャレンジデーに参加しているが、チャレンジデーに向けて、町の一体となった取組を行っている。
- メ③) やはりそのためにも一般開放の場を作り、スポーツをする人の裾野を広げることが必要だと思う。
- コ) まとめとして、幕別町は5年後も具体的にこのようになっていけばオリンピックの町として持続していると言えるのかという視点で次回議論していき、まとめていきたい。

ホワイトボードの写真

